

VOL. 131

日本：
令和3年8月豪雨
被災者支援事業
ネパール：
新型コロナウイルス
感染症対策事業
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985

News

2022
3



豪雨・コロナ・台風・噴火・津波
被災地は今。
人々に寄り添う支援を

災害対応バスも活用し、地域支援を行っています

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

事業地であるゴクウェ・ノースでは教育に対する関心や優先順位が低い家庭があります。そのため、ADRAは地域住民を集めて、「1人の子どもも取り残さない」をテーマに教育啓発キャンペーンを実施し、児童自らが「子どもが教育を受ける重要性」を詩、歌、ダンス、劇等を通して伝えました。(この教育啓発活動は変異株の感染拡大が始まる前に地方行政から許可を取り実施しました。)



子どもたちのダンスによる教育啓発

- ADRA Japan 実施事業
- 世界のADRA支部がある国と地域



AFGHANISTAN アフガニスタン

バーミヤン県における教育環境改善事業

アフガニスタンの政情はまだ不安定で、厳しい状況下の活動ではありますが、長年続けてきた教育支援をできる限り継続しています。建設中の校舎は少しずつ完成に近づいています。また、教師と生徒を対象に新型コロナウイルス感染症予防に役立つ研修を行いました。ADRAとしてできることを進めてまいります。



仮校舎のテント内での衛生教育研修



衛生教育の教材から学ぶ生徒たち



ETHIOPIA エチオピア (南スーダン難民支援)

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

人口密度が高い難民キャンプでは、野外排泄などによる不衛生な習慣に起因する感染症の蔓延防止が喫緊の課題となっています。衛生環境を改善するために、学校での手洗い場設置や学校衛生クラブへの研修、そして難民自身でトイレを建設するための研修を計画中です。エチオピア国内の内紛の影響も一部ありますが、現地スタッフの安全を確保しながら事業を実施しています。



衛生環境改善の計画についてスタッフと話合う難民の衛生啓発員たち

NEPAL ネパール

新生児・小児の保健環境改善支援事業

赤ちゃんや子どもの健康を地域全体で守ることは大切です。しかし、地方に住む人々の母子保健に対する意識は低い状況です。そこでADRAは、青少年を地域における意識改革の担い手として育成するため、地域の保健医療施設や教育機関と協力し、中高生たちとの勉強会および啓発活動を実施しました。参加者はその後も親戚や近所の妊産婦の方々へ、勉強会で得た学びを伝えています。



世界未熟児の日キャンペーンの様子

新型コロナウイルス感染症対策事業 → p.6

JAPAN 日本

令和3年8月豪雨被災者支援事業 → p.4-5

VIETNAM ベトナム

異文化の中で働く難しさを緩和し、家族を支える働き世代をサポートする労使関係改善のための文化的教育事業

日本で働くベトナム人が数十万人いる中で、多くの労使問題等が発生しています。こうした問題の軽減策の一つとして、意識調査を行う準備を進めています。今後調査を行い、収集したデータをもとにハンドブックの作成を進めていきます。



MYANMAR ミャンマー

教育および緊急支援事業

ミャンマーでは、1年前より不安定な社会情勢が続いています。ADRAは現地スタッフの安全を確保しながら、緊急支援物資の配付等、現在の状況下でできる支援に取り組んでいます。



教育支援〈ナマステ基金〉事業

学校に通い続けることができない子どもたちを対象に、学資支援事業を行っています。昨年のクリスマスの時期、支援を受けている子どもたちが、継続支援のスポンサー登録をしてくださっている方々への感謝の気持ちを込めて、グリーティングカードを作成しました。カードには、微笑ましい絵とともに得意な科目、好きなこと、将来の夢などが書かれていました。



支援者の方にお礼のカードを書く生徒

● ADRA International (世界本部)

- ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
- 日本NGO連携無償資金協力(ジンバブエ、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー)
 - 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(エチオピア、ネパール)
 - 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(ミャンマー)

ADRA JAPANの活動

JAPAN 日本

令和3年8月豪雨被災者支援事業

豪雨被災地は今。 支援側の人手不足を支え 住民に寄り添う支援を



サロンにて集まって会話をしている時間が心の元気を取り戻す時間になっている

昨年の夏、8月11日から西日本を中心に降り続いた豪雨は、多くの地域で河川の氾濫や土砂崩れなど、甚大な被害をもたらしました。佐賀県武雄市は2年前の令和元年8月豪雨でも大きな水害を経験し、1,000世帯以上が浸水の被害に遭いました。当時は、「数十年に1度の災害」と言われ、被災された方の中には、「それなら仕方ない」と現実を受け入れ、家屋の修繕などを進めてこられた方もいらっしゃいました。やっとご自宅が再建でき、元の生活を取り戻せそうだという状態になった矢先に、前回よりも高水位の浸水被害が起こり、浸水世帯数は1,756世帯にもものぼりました。短期間で2度の大きな災害に遭うことによる経済的、体力的そして精神的な負担は大きく、「こんなことになるならあの時死んでしまえばよ

かった」という声が聞かれるほど、武雄市の方々は災害によって追い詰められていました。

このような状況の中、ADRA Japanは皆さまからのご支援のもと、令和元年8月豪雨被災者支援でも連携した佐賀県武雄市の地元団体である「おもやいボランティアセンター（以下、おもやいさん）」と連絡を取り合い、支援活動を開始しました。まずは浸水した家屋の拭き上げに使用する雑巾1,000枚をお届けし、浸水したあとの家屋はできるだけ早く乾燥させる必要があるため、床下の乾燥に使用する送風機2台を寄贈しました。また、一度に多くの方が被災する現場では、行政サービスが行き届かなかったり、被災された方同士だとかえって悩みを打ち明けづらく、個々人が抱えている困りごとが表に出なくなる傾向

があったりするため、武雄市にスタッフを1名派遣し、復旧作業の合間に住民の方が立ち寄れて気軽に相談ができるサロン活動の運営をサポートしました。

サロン活動を始めると、参加した住民の方からは、「(地域の人たちで)集まる機会がないので良いきっかけになった」、「やっぱり話すといいんだね」という声が聞かれたり、被災世帯が受けられる公的サービスに関する適切な情報を提供できる場になったりと、家屋の復旧作業に追われる方々に寄り添う支援ができています。一方で「自宅は修繕したがこのままここに住んでいて良いのか」、「生まれ育った場所なので離れたくないが今後に関する不安がある」などの声も聞かれるようになり、時間の経過や気持ちの変化によって、継続的に寄り

添っていく必要が出てきました。また、家屋の修繕は、ボランティアができる作業を行った後、大工さんに修繕をお願いする必要がありますが、人手不足のため順番待ちの状態が続き、修繕が終わらないと料理をする気が起きない、何もしたくない、といったことを口にする方が少なくありませんでした。さらに、地元の復旧復興に大きな役割を果たしているおもやいさんも、被害の大きさと人手不足により、寄り添い活動が必要とされていることがわかっていても支援の継続が危ぶまれる状況にありました。

そこで、10月中旬からは追加でもう1名のスタッフを派遣し、物資を受け取りに来られる住民の方の対応や被災家屋の片づけなど、マンパワーの提供を行いました。災害発生から約2か月後の派遣で、街並みは一見元通りになっているように見える状態でしたが、派遣されたスタッフは、被災されたお宅の中で床板や壁がはがされたままになっている様子や、給湯器が使えないためお風呂に入っていない、カビが生えてきて困っている

など、外からは見えない深刻な問題を目の当たりにしました。おもやいさんの活動をサポートしながら住民の方へも丁寧に接し、4か月の経った今では「おもやいさんに毎日いることで住民の方が名前を覚えてくださるだけでなく、いろいろな悩みを話してくださるようにもなりました。住民の方々に受け入れていただいて嬉しいです」と活動の成果を感じています。

災害発生から半年以上が経ち、町では営業を再開したお店も少しずつ増えてきました。住民の方々から寄せられる相談も、「市役所への手続きがよくわからないから教えて欲しい」「被災した自宅から貸家に移るから引っ越しの手伝いをして欲しい」「こたつが壊れたかもしれないので見て欲しい」など、より具体的な内容に変化してきました。おもやいさんの事務所も徐々に落ち着いてきたため、スタッフ派遣はこの3月をもって終了する予定ですが、ADRA Japanは引き続きおもやいさんと連絡をとりつつ、今後も必要に応じたサポートを行ってまいります。



被災直後(おもやいさんより8月15日午前撮影)



おもやいさんの事務所で物資を受け取りに来られる住民の方の対応をするADRAスタッフ(中央)

ADRA Japanを
支えてくださる方を
ご紹介します!

アドラの
チカラ



小澤真由美さん

社会福祉法人ドルカス福祉会
函館三育認定こども園 園長

— ADRA Japanをお知りになった
きっかけは何ですか？

こども園で働き始めて知りました。

— ADRA Japanとの関わりについて
教えてください。

こども園のこども達のために、毎年ADRA Japanの方が来園して下さり、コロナ禍になってからはオンラインを通して、様々な理由で学校等に行けないこども達への現状と教育支援についてお話していただいています。また、毎年行われるこども園でのクリスマス発表会で保護者の皆さまがささげてくださったクリスマス献金を送っていることから、関わりを持つことができます。

— ADRA Japanの魅力について、
ADRAと関わっていて良かったと
思う時があれば、教えてください。

こども達へADRA Japanの活動について伝えてくださっていることで、こども達の心の中に自分が与えて貰うことばかりではなく、誰かの役に立ちたいという心、思いやりの心等が少しずつではありますが育まれる機会となっています。また、今はまだ、自分の将来のことをじっくりと考えられる年齢ではありませんが、時期が来た時に、ふとADRA Japanの活動を思い出し、将来の仕事の選択肢の一つになってくれたら嬉しいと思います。また、ほんの一部ではありますが、寄付金を通して支援活動を応援できますこと、嬉しく感じています。

— まだADRAのことをご存じない方への
メッセージをお願いします。

ADRA Japanは世界各地で国際協力活動を行っています。色々な寄付のかたちで私たちは、その活動を支援することができます。そしてたくさんの人を救うことができます。ADRAのスタッフの活動がこれからも継続できますように皆さまの支援と応援をよろしくお願いいたします。

— ADRA Japanへのメッセージをお願いします。

災害や紛争のある場へ行き、支援・援助活動をされているスタッフの皆さまの働きに感謝と応援をいたします。どうか皆さまも健康が守られますように。そして、困窮や不安から世界が救い出されますように願っています。

NEPAL ネパール

新型コロナウイルス感染症対策事業

最前線の医療従事者を支え、
多くの患者さんを
助けることができました

ネパール西部のバンケ郡では、2020年の第1波、そして2021年の第2波と新型コロナウイルスの感染爆発が、首都のカトマンズよりも先に起こりました。同郡は国の中でも医療サービスが遅れている地域ですが、地域の保健局や医療施設が連携し、感染拡大に全力で対応していました。

バンケ郡のベリ病院は地域で唯一の公立救急病院であり、新型コロナウイルスの重症患者を治療する最後の砦となる病院です。感染拡大の状況に対応するため、新型コロナ患者用の病床を100床に増やし治療に当たっていました。ところが第2波の時はそれでも病床が足りず他の病棟に150床を追加し、さら



提供した防護具を身に付けて患者を治療する看護師

に患者が増えたため、やむを得ず廊下や床、屋外テントにまで病床を設置するなどして、ピーク時には350名もの患者を受け入れていました。

しかし医療資材も人材も、医療従事者を守るための个人防护具も足りておらず、職員の多くが新型コロナに感染してしまいました。看護師長であるシャイラ・シャルマさんは「第2波のときの感染拡大のスピードにはかなりの恐怖を覚えた」と言い、1年半以上新型コロナ患者の治療に当たってきた看護師のマドゥ・グルンさんも「毎日15~20人が入院してくる上に、その内の4、5人は集中治療室での医療ケアが必要な重症患者でした。なのに、治療薬や个人防护具、酸素供給、酸素マスクも何もかも足りませんでした」と緊迫した状況を語りました。

このような危機の中、ADRA Japanはベリ病院が適切な治療を行うことができるよう、不足していた酸素濃縮器、血糖測定器、ベッドサイドモニターに加え、医



マドゥ・グルンさん(左)と同僚

療従事者の方々が感染から身を守るよう个人防护具も提供しました。

支援後のことを、マドゥさんはこう語ってくれました。「酸素濃度が75~85%と低い状態で入院してきた36歳の患者さんは入院後も病状が悪化し続けていました。かなり重症でしたが入院2週間後から、鼻から空気を送り込む呼吸器を使用したことで徐々に回復し、25日後には呼吸器が外れ、2か月後に退院できました。支援していただいた防護具のおかげで看護師として感染を恐れずに患者を助けることができました。また、酸素濃縮器、血糖測定器などの医療資機材で適切な治療もでき、やりがいと誇りを感じることができました。」

現在もベリ病院では新型コロナ患者の治療を行っており、提供した医療資機材が活用されています。皆さまの温かいご支援により、最前線の医療従事者を支え、多くの患者さんを助けることができました。心より感謝申し上げます。

※この事業は皆さまのご寄付のほか、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームからのご支援も受けて実施しています。



世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。

TONGA トンガ

噴火と津波によって被災した700世帯に現金給付支援を実施

トンガでは、1月15日に起きた海底火山の噴火と津波で人口の84%に当たる人たちが被災しました。2月6日の時点で確認できているだけでも、280棟の家屋が被害を受け、2,390人が避難生活を送っています。国際的な支援も届き始めていますが、食料の確保が大きな懸念事項のひとつです。同国への通信もまだ困難な状況です。

ADRAは現地のセブンスデー・アドベンチスト教会と協力し、トンガ国家危機管理局の指導のもと、1月31日から噴火と津波で甚大

な被害を受けたトンガの本島であるトンガタブ島、アタタ島、マンゴ島などで大きな被害を受けた700世帯を対象に現金給付支援を行いました。これにより被災した人たちは、当面の食料や生活必需品などを調達することができています。

今後、ADRAは現地の状況に合わせてながら支援を実施し、長期的には農作物や農地・家畜の被害を受けた人々の生計回復なども支援する予定です。



2人の壮絶な被災体験はブログに掲載しています。

ブログのQRコードはこちら



PHILIPPINES フィリピン

台風で壊滅的な被害にあった方々に長期的に寄り添う支援を



現金給付支援を受け取った被災者の方々

2021年12月にフィリピンを襲った台風22号は、被災者885万人、倒壊家屋151万棟という史上最悪の被害をもたらしました。ADRAが支援に入ったネグロス島では、家々は吹き飛ばされ、収穫間近の作物も流され、田畑は泥に埋まり、子どもたちからも「屋根がほしい、サンダルが欲しい、お米やご飯を炊くお鍋がほしい」という切実な声があがる状況でした。

ADRAは台風上陸の前日から緊急チームを立ち上げ、年末年始も休まず、被災された

方々に食料や生活必需品、現金の配付を続け、1月上旬までに5,000世帯以上に支援を届けました。また、ネグロス島においては物資支援に加え、収入源を失った方を支え、地域復興を助けるために、がれきの撤去作業に対して賃金を支払うキャッシュワークの支援と、家屋の修繕支援をスタートしています。

被害規模がとて大きく、被災者の方々が元の生活を取り戻すためには数年かかると予想されています。ADRAは今後も、一人ひとりに寄り添った支援を継続していきます。

通常総会開催のお知らせ

第18回ADRA Japan通常総会を以下の通り開催いたします。

日時：2022年6月19日(日)10時~12時

場所：SDA原宿クリスチャンセンター

主な議題 ● 2021年度事業報告承認の件
● 2021年度会計報告承認の件
● 監事選任の件

《新型コロナウイルス感染症への対応について》
総会の開催日時および方法につきましては、今後の感染状況に応じて計画し、改めてお知らせいたします。

色々な寄付のかたち

ADRA Japanが実施する事業へのご支援は、寄付やボランティア、お知り合いへの活動の紹介など、さまざまな形がございます。また、ご寄付に関しましても、お金でのご協力だけではなく、物品や金券によるご支援も受け付けております。

1 ADRAフレンドとしてのご寄付

マンスリーサポーターとして継続的なご支援をいただくことは、事業の実施において非常に大きな支えとなります。月1,000円からお申込みいただけます。



2 一回ごとのご寄付

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付を常時受け付けております。支援を希望される事業のご指定も可能です。

【郵便振替】 口座番号：00290-2-34169 加入者名：(特活) ADRA Japan



3 Tポイントでのご寄付

Yahoo!ネット募金のサイトを通して、Tポイントでのご寄付が可能です。使用予定のないポイントがございましたらぜひご協力ください。



4 物品でのご寄付

お宝エイドの活動を通じた、宝飾類、ブランド品、絵画、古銭、メダル、ブランド食器、カメラ、楽器などの骨董品によるご寄付です。送料無料で、自宅等ご指定の場所へ業者が集荷に伺います。



5 金券等によるご寄付

書き損じハガキ、未使用のハガキや切手、デパートなどの商品券、お米券などの金券によるご寄付です。事務局宛にお送りください。



応援メッセージ

混沌とした世界で、支援を必要としている国・地域があり、同じ宇宙船「地球号」に乗り組む一員としてこの状況に無関心であることに後ろめたさを感じていました。そんな中、ADRA Japanを通じて自分にもできることがあることに気付かされ、支援を始めました。(吉田 敏英さん/賛助会員)

ヘルパーさんがお掃除に来てくださり、引き出しの中や段ボールを整理してもらっているときに出てきた小銭を封筒に取っておき、ある程度貯まるとADRAに送っています。皆さまお体を大切にお励みください。(E・Yさん/定期寄付者)

お問い合わせ先

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org

いただいたご寄付は税制優遇の対象となります。

ホームページ: <https://www.adrajpn.org/>



ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 131号 2022年3月1日発行

発行人 浦島 靖成
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿) 駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生 (理事長)
事務局責任者 浦島 靖成 (常務理事/事務局長)
創設年月日 1985年3月30日



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所